

研究の成果と課題

成果

- ・ 学校全体として取り組んだことにより、タブレットを活用するスキルについて職員間の格差が小さくなった。
- ・ タブレットを用いた授業改善を行ったことにより、全員がタブレットの有効性に関する議論のテーブルに着くことができた。
- ・ 公開授業が全学年かつほぼ全教科にわたったことにより、タブレットを使った授業改善の事例が増え、活用方法の視点や実現性を知識として獲得できた。
- ・ 年間通して実践事例を各担任が提供し、それを学校全体でストックしていったので、多くの実践事例を収集することができた。
- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大等の影響で、どのクラスもリモート授業に取り組まざるを得ず、結果的に均一のスキルアップにつながった。
- ・ 年度当初、教員の ICT に対する意識やスキルがほぼゼロベースから始まったが、年度末には、その両方に大きな向上が見られた。この成果を生み出した今年の研究の取り組みの軌跡（年間計画）自体が、これから ICT を本格導入しようとしている他校の参考になると考える。

課題

- ・ 授業改善という視点は、あたかもタブレットのどのアプリをどう使うかという考えに陥りがちだが、本来「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現するために、タブレットのメリットを生かした授業づくりという考え方の順を常に意識しておく必要がある。「個別最適な学び」「協働的な学び」をどう解釈し、どのように授業に組み込んでいき、そこにタブレットを活用するのか、試行錯誤しながら取り組んでいかななくてはならない。
- ・ 個別最適な学びに対して、課題に対しての興味や関心を横軸、学びの深度を縦軸と考え取り組んできたが、縦軸への対応が課題として残った。
- ・ 学習課題に対するねらいを達成するために、協働的な学びの場はどう効果的に組み込んでいけるのか、今後も取り組んでいく。
- ・ タブレット活用については、クラウド活用の中で何ができるかを整理するのも大事な視点の一つである。
- ・ プログラミング教育に関しては、実施状況を分析し、各学年事例を収集した上で、アンプラグドも含め実現可能な形の年間計画を提案しなければならない。